

PEACE GOURD



9条の会・養老
会報、第44号
2023年12月2日
(部内資料)

”ピース・ガード” 「平和の瓢箪」

今年の「彰元さんのつどい」では、熊本で自営業（電気工事）を営みながら市民運動を続ける、田中信幸さん（72才）を招いて、氏の父親の戦争責任との向き合い方についてお話がありました。参加された会員の水谷久美子さんから、感想を寄せて頂きました。

彰元さんに学び、9条の会の一員として

水谷久美子

反戦を貫いた僧、竹中彰元（たけなかしょうげん）師の地元である垂井町岩手の真宗大谷派明泉寺（みようせんじ）で、国際反戦デーで彰元さんの命日でもある10月21日「2023年彰元さんのつどい」が開かれ参加してきました。

主催：真宗大谷派大垣教区

今から86年前の日中戦争が始まった年に「戦争は罪悪である」「この戦争は侵略戦争だ」と語り、彰元師は逮捕され有罪となりました。その道のりは、大変厳しく教団からの懲戒処分、布教使資格のはく奪などを受けましたが、終戦2ヶ月後の77歳で亡くなるまで宗教人としての反戦を貫き通しました。

地元では彰元師の復権を求める署名活動が拡がり、2007年10月に教団から処罰の取り消しと謝罪を受けて名誉が回復され、その後毎年「つどい」が開かれています。

平和であるべき21世紀が、戦禍の中をさまよう人々の悲痛な声で溢れる事を私達は想像したでしょうか。ガザ地域では10分に1人の子供たちの未来ある命が断たれています。この現実の中で「9条の会」の一員として皆さんと一緒に歩みを止めない活動に参加することを「つどい」から改めて学びました。

大垣市友江



講演する田中信幸さん



「反戦僧侶」♪を唄う。
作曲者、増田さんと共に



ガザの子供たち、ユニセフHPより



♪ ♪ 戦後は続くよ どこまでも ♪ ♪

なぜ戦争への準備なのか～平和への道を探る

ぎふ平和のつどい・・・11/3に参加して 報告：世話人 中野一美

今から77年前の1946年11月3日、日本国憲法が公布され、翌47年5月3日に施行されました。この日を記念して、「ぎふ9条の会」を始めとした実行委員会が「ぎふ平和のつどい」を開催しています。今年は、中日（東京）新聞記者の望月衣塑子氏と、政治学者、白井聡氏の講演と対談でした。

望月さんは、権力に忖度せず、当時の菅官房長官に何度も質問を続けたことで有名です。「岸田政権は昨年末、安保3文書を閣議決定、敵基地攻撃能力を容認し、GDP比2%の軍拡を決めた。それに年4兆円の税金をつぎ込むことは、早々と決めた一方、年3兆円とされる全国の小中高大の教育、給食費用の無償化は進まない。OECD（先進38ヶ国の経済協力開発機構）諸国の中でも最低レベルだ。税金を何のためにどう使うべきなのか。主権在民とは何か。考えていきたい。」と訴えました。



白井さんは、思想史家、政治学者。著書『永続敗戦論』で、戦後日本の核心は、対米従属と敗戦否認の相補関係にあると主張し、気鋭の政治学者として一躍脚光を浴びた。

「防衛費が大増額され、専守防衛は実質的に放棄、この国はいったいどこに向かうのか。その答えは、戦争以外にありません。米中対立が日中戦争のかたちをとる可能性はウクライナで起きていることを見れば、考えられます。他方で、少子化は止まらず、産業競争力の低下は顕著に。不安と苛立ちが募るなかで、ヘイトスピーチに見られる感情の劣化は止まりません。そんな状況にどう立ち向かうのか。」と訴えます。



第2部の2人の対談では、白井氏の鋭い考察に学ばさせられました。「歴史的に、そして大きな視点で見ると、19世紀から20世紀にかけて、今のG7に代表される北側先進国、つまり軍事大国が帝国主義国として、アジア、アフリカ、中南米を次々と侵略し植民地としていった時代があり、第2次世界大戦の後、アメリカが世界の盟主となった。

日本は明治維新で、ぎりぎり先進国に追いつき、軍事大国になり、アジアで唯一の先進国として、朝鮮や中国を侵略したが、結局先進国同士の利権争いの第2次世界大戦で膨大な犠牲を払って敗戦を迎えた。もう2度と、悲惨な戦争はするまいと、日本国憲法が作られ、戦争の放棄を宣言した。9条もできたが、アメリカの世界支配戦略の都合で、日本をアメリカの言うことをよく聞く先進国として復活させる代わりに、軍事大国となって、アジアの反共の防波堤となる役割を負わされた。



21世紀の今、アメリカをはじめとする北側先進国が、中国をはじめとする南側発展途上国を抑えて従わせることがだんだんとできなくなっている。どちらが世界の盟主となるかの覇権争いの中で、ロシアのウクライナ侵略、イスラエルのガザ侵攻への対応が分かれている。

そして台湾有事が米中対立の最前線となり、近い将来に軍事衝突の起きる可能性が強い。この時最初にミサイル攻撃をやり合うのは、中国対アメリカ本土ではなく、中国対日本の沖縄諸島の日米の基地になる。その限りでは岸田政権が、自衛隊の基地に核シエルターを作るのは間違っていない。

これ以上アメリカの言いなりになって、中国と代理戦争をする道を突き進んでいいのか・・・！！

当日は撮影が禁止されていたため、後日実行委員会から配信された写真を使いました。 (T)

大垣別院仏教公開講座「ウトロに生きる ウトロで出会う」金 秀煥 氏

報告：佐竹 哲（世話人）

大垣別院では毎月18日午後7時より仏教公開講座を開催、去る10月18日は、ウトロ平和祈念館副館長の金 秀煥(キム・スファン)氏に講演いただきました。講演は興味深く、大変に感銘を受けたので一部紹介します。

金氏の運営する祈念館があるウトロ地区は、京都府宇治市にあり、戦時中に国策である「京都飛行場」建設に集められた朝鮮人労働者の飯場跡に戦後、そのまま在日コリアンが定住した地区です。終戦以降、ウトロ地区には更に多くの朝鮮人たちが流入します。職業や入居等で差別を受ける在日コリアンにとって、ウトロ地区は劣悪な生活環境ながら、在日コリアンが助け合って生活できるセーフティーネットとしての役割を果たしていました。ところがウトロ地区土地所有の国策会社から引き継いだ民間会社「日産車体」が住民に知らせずにこの地を転売、買い取った会社が立ち退きを要求してきたのです。住民たちは必死に抵抗しましたが、後に裁判となり住民側が敗訴、国から退去命令が出されるのです。しかし、ウトロの人たちは諦めずに声を上げ続け、宇治市民の支援もあって2010年、民間基金財団が買い取って今まで通りウトロに居住することが認められました。金さんは、宇治市の日本人支援者が、「可哀そうだから」と手を差し伸べたのではなく、ウトロ差別は人権問題であり、放置するならば宇治市民の恥であると理解したことが、大きな力になったと話されました。

これまでウトロ地区は、在日コリアンの「スラム」と差別され、生活環境も劣悪でしたが、1988年によく上水道が敷設されました。その際に宇治市民を含む日本人支援者が寄り添い支えました。先に書いた立ち退き問題に対する日本人の支援の輪はこの頃より始まり、その発端はウトロ住民が地区内に広場を作り、宇治市民は元より民族・国籍問わず地区に招いて市民交流を重ねてきたということがあったのです。その交流の積み重ねがウトロ地区に対する偏見を解消し、同じ宇治市民であるという共感が生まれたのです。国内各地に在日コリアンタウンはありますが、このような解放された地区は珍しく、健全な地域社会の手本と言えるでしょう。

しかし、二年前、祈念館で展示予定していた住民運動の資料が収められている倉庫が、日本人青年により放火、住宅を含め7棟が燃える被害がありました。犯人の青年の動機は、在日コリアンが日本に住むまでの歴史も知らず、一方的に日本人にとって在日コリアンは悪であり、害であると思い込み、懲らしめようと思ったというのです。金氏は、日本ではこれまで戦争の歴史教育が不足しているから、このような事件やヘイトスピーチが繰り返されるのではないかと私たちに問い掛けました。日本人である私は、このようなヘイトクライム(偏見や差別による犯罪)が起こる日本社会を恥ずかしいと思わされるばかりでした。それでも金氏は、最後に「ぜひウトロに来て下さい。友だちに会いましょう。」と明るく語ってくれました。いつの日か当九条の会でウトロ訪問の実現を！



金 秀煥 氏

◇今後の活動予定と各団体のイベント予定◇

★「ぎふコラボ友の会」総会

日時：12月9日（土）14時～

場所：スイトピアセンター2Fスイトピアホール（入場無料）

内容：◎前半/総会 ◎後半/演奏会（大垣女子短大アンサンブル）

主催：ぎふコラボ友の会

Tel. 0584-81-5105

★大垣警察市民監視違憲訴訟、第7回口頭弁論

日時：12月12日（火）10時～

場所：名古屋高裁1号法廷

内容：証人尋問（当時の警察官の出廷の可能性が高まりました。）

傍聴団の送迎バスが出ます。

Tel. 0584-81-5105

夜の9時には、冬の代表オリオン座が東の空に昇る季節になりました。本号が今年最後の発行となりますが、今年は、郵送で会報を届ける会員さんから思いがけないカンパも届きました。来年も9条を守る運動に貢献できるような活動に、力を尽くしたいと思います。

世話人一同

オリオン座、11月15日撮影



編集後記

前号で、四季の中から春と秋が無くなるのではどの危惧を記したところ、本当にいきなり冬がやって来たかと思えば、「小春日和」を超える夏日がやって来たり、体調管理も大変な今日この頃、会員の皆さんはいかがでしょう。

10月の世話人会では、独自企画をどうするかで悩み、幾つかのDVDの案も出され、その中で実写版の「はだしのゲン」も候補に挙がりました。47年前の映画で、ゲンの父親役が今は亡き三國連太郎さん、母親役は同じく左幸子さん、みんな若い！とは言え最終決定には至らず、会報発行となりました。

本会報では▼他団体での参加レポート2題▼大垣教務所の企画から1題の3題としました。

ところでイスラエルによるガザ侵攻が座視できない事態となる中、取り急ぎとでもいべきアピール企画があり、連絡のつく範囲で誘い合って、大垣駅前での「11.23平和を求める西濃緊急スタンディング」に行ってきました。主催は「9条を守る西濃共同センター」で、折りしもこの23日は沖縄で「全国連帯！沖縄から発信しよう！11・23県民平和大会」が開かれており、沖縄に連帯する形になりました。

世話人 問山尚義



11月23日
大垣駅前にて
スタンディング

垂井・明泉寺「彰元さんのつどい」

教科書ネット事務局長が語る



田中さん（右奥）の講演を聴く参加者ら＝垂井町岩手の明泉寺で

反戦の訴え
勇氣必要

↑11月22日付中日新聞
朝刊の「彰元さんのつどい」
の記事写真

つどい当日は新たに出来た
紙芝居「しょうげんさん」
も披露されました。⇒



連絡先

「9条の会・養老」世話人

090-9183-0444 中野一美（代表）

090-9894-0444 佐竹 哲

090-2348-0719 問山尚義

090-8733-0090 禿 憲正

fax（問山）

0584-71-8746

E-mail（問山）

toiyama@ninus.ocn.ne.jp